

就任のご挨拶



原村教育委員会教育長
古清水 巖

このたび、原村教育委員会教育長を拝命しました古清水 巖です。重責であり、身が引き締まる思いです。同時に、素敵な原村のため、これからを賢く・優しく・逞しく生きる子どものために、誠心誠意職務を全うしたいとの思いでいっぱいです。

この3月までの3年間は校長として、平成4年から8年間は教諭として原中学校で勤務し、原村のこれからを担う子どもたちの教育に携わってきました。3月にお別れをした際は、まさかこの立場で再度お世話になるとは思ってもいなかったわけですが、しっかりと原村に恩返しをしなければとこのことであると、捉えさせていただいています。現在、原村の目指す教育の現状を把握し、課題を探っています。大切なことは、夢を語り、目指す方向を共有し、その達成のために努力していくことだと思えます。新しい村長のビジョンに沿い、目標達成のために多くの皆さんと手を携えていきます。

原中学校長として一番に掲げているのは、「地域とともにある学校」です。地域の思いを感じながら、子どもたちの可能性を信じ、子どもたちの主体的な学びを支えられるように、先生方と思いを一にしてやってきました。そして、原村からできる活動の充実を目指し、原村学と銘打った活動をはじめ、地域の皆さんと一緒に活動を探ってきました。また、「原っ子は、原村のみんなの力で育てよう」と、原村教

育の重点に掲げられていることもあり、村民の皆さんに子どもたちと関わっていただきたいと、学校応援団を組織しました。この思いは中学校だけではなく、原小学校長とも連携して推進してきました。広報での発信が主であり具体的な活動応援を示すことができなかったため、「協力をしたくてもいつ行つて良いかわからない」といった言葉のように、十分な形で進められなかった部分もありました。しかし、地域の皆さんと協働して取り組むことは、子どもの成長にとって大変意義のあるものであり、原村への愛着は、こんなところから培われるのではないのでしょうか。また、地域の皆さんのひとつのやりがいにつながってほしいという願いがありました。教育長となった今もこれらを大切にしていきたいと考えています。

私の強みは、子育て世代の中に多くの教え子がいること、また教え子の保護者の方を知っているということ、さらには現在の中・高校生世代の顔が分かるということだと自負しています。そんな皆さんをはじめ、多くの方の生の声を聞かせていただく中で、学校教育はもちろん、生涯学習、スポーツ振興などに力を注ぎます。どうぞよろしく願います。

〈今、大切にしたい言葉〉

夢を目標に 目標を共有して実現へ

〈経歴〉

- 1962年(昭和37年) 10月生まれ(60歳)
- 1985年(昭和60年) 順天堂大学体育学部体育学科卒業
- 2006年(平成18年) 上越教育大学大学院 修了
- 1985年(昭和60年) ~ 2023年(令和5年)3月
長野県の教員として勤務(このうち11年を原中学校で勤務)